

石塚江之戸遺跡調査概報

平成12・13年度 総合ブライダルハウス建設に伴う調査

2001年6月

ときめきウェディング株式会社
高岡市教育委員会

序

石塚江之戸遺跡は、高岡市南西部に位置する集落であります。当地は、平成11年度の試掘調査結果において、中世にまで遡る生活の痕跡が確認されており、プライダルハウス建設に伴い発掘調査が必要となりました。この調査では、ときめきウェディング株式会社様に、文化財保護の重要性をご理解いただき、調査費用のご負担をご快諾いただきました。ここに、お陰をもちまして、発掘調査概報の刊行を迎えることができました。調査結果は、当地における中近世の歴史像を具体化していく端緒となる基礎資料及び成果を挙げたものと思われます。

本書は、郷土の歴史をお知りいただくための参考にしていただき、ひいては文化財保護に対する理解の一助としていただければ幸いです。

最後に調査では、開発者、地権者、地元関係者、調査実務をされた（株）中部日本鉱業研究所など、多くの方々のご理解ご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げますとともに、今後益々のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年 6月

高岡市教育委員会

教育長 細呂木 六良

例 言

1. 本書は、総合ブライダルハウス建設に伴い実施した、石塚江之戸遺跡の埋蔵文化財調査概報である。
2. 当調査は、ときめきウェディング株式会社の委託を受け、高岡市教育委員会の監理のもと株式会社中部日本鉱業研究所が実施した。
3. 調査費用はときめきウェディング株式会社よりその全額の提供をうけ、ときめきウェディング株式会社・高岡市教育委員会・(株)中部日本鉱業研究所の三者間で、協定書をとり交わし調査を行った。
4. 調査地区は、高岡市上北島240-1・241-1・242・243・244番地である。
5. 現地調査は、平成13年3月16日から平成13年4月16日までである。
概報書作成業は、平成13年4月26日から平成13年6月29日まで実施した。
6. 調査関係者は次の通りである。

文化財課長	:	宮村勝博
課長補佐	:	大石 茂
主幹	:	天谷隆夫
調査員	:	山口辰一・根津明義・荒井隆・太田浩司
7. 本書の執筆は第1章第3項を太田が行い、それ以外を(株)中部日本鉱業研究所主任調査員新宅輝久が担当した。
8. 本書における遺構の種別は、下記に示す記号を用いた。

S D	—溝	S K	—土坑	S P	—穴	S X	—不明
-----	----	-----	-----	-----	----	-----	-----
9. 図版に掲載している方位等は、すべて真北である。
10. 当調査の調査参加者は下記の通りである。(五十音順・敬称略)
 - ・現地調査
石川敬二・植野良一・喜多清直・畔木和雄・新保勝正・菅原一雄・高橋英史子・長礼知
辻口さゆり・橋本定夫・松沢秀雄・吉田敏大
 - ・整理調査
高橋英史子・辻口さゆり

目 次

序

例 言

目 次

I 遺跡概観

1. 歴史的環境	6
2. 周辺遺跡の分布	7
3. 調査に至る経緯	10
4. 調査経過	11
5. 基本層序	11
6. 検出遺構	11
7. 出土遺物	11
8. グリッド	11

II 遺 構

1. 調査区の概要	12
2. 土坑	14
3. 溝	16
4. 穴	18

III 遺 物	20
---------------	----

IV 結 語	23
--------------	----

挿図目次

第1図 遺跡調査区位置図 (1/2500)	6
第2図 明治43年石塚江之戸遺跡周辺地図 (1/40000)	7
第3図 1943年米軍空中写真 (1/40000)	8
第4図 石塚江之戸遺跡周辺遺跡分布図 (1/40000)	9
第5図 基本層序略図	11
第6図 石塚江之戸遺跡調査区全体図 (1/300)	13
第7図 土坑平面図・断面図 (1/60)	15
第8図 溝平面図・断面図 (1/60)	17
第9図 ピット列造構平面図・断面図 (1/40)	18
第10図 穴平面図・断面図 (1/20)	19
第11図 出土遺物実測図 (1/3)	22

図版目次

図版1 遺跡 1. 調査区遠景 (南から)	
2. 調査区全景	
図版2 遺跡 1. 調査区全景 (北から)	
2. 調査区北側全景 (東から)	
図版3 造構 1. SK02完掘 (北から)	
2. SK07・08完掘 (北から)	
3. SK09完掘 (南から)	
4. 重機稼働風景 (南西から)	
図版4 造構 1. 現地調査風景 (北から)	
2. 土層断面図作成風景 (南西から)	
3. 航空測量風景 (東南から)	
4. 敷設基地設置風景 (南から)	
図版5 遺物 1. 出上遺物	
2. 出土遺物	

図表目次

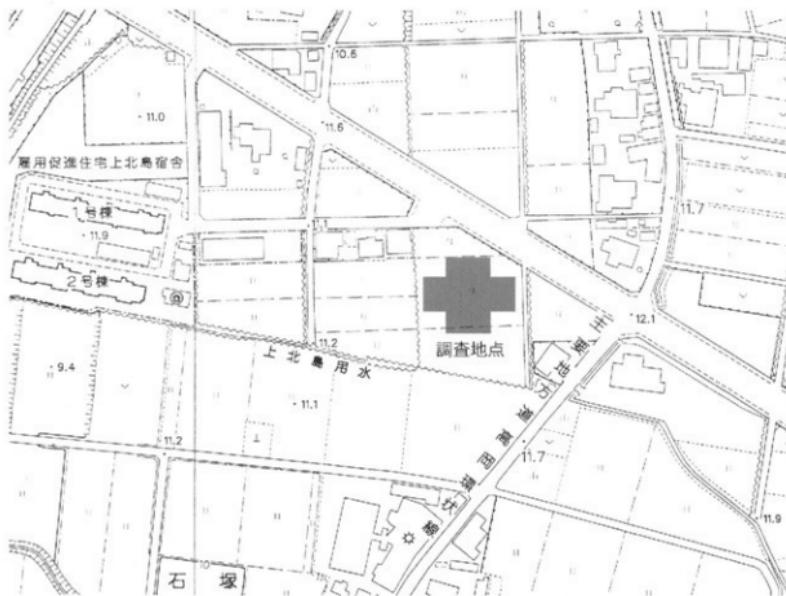
第1表 実測遺物観察表	20
第2表 実測外遺物観察表	21

I 遺跡概観

1. 歴史的環境

石塚江之戸遺跡は、東西約300m、南北約180mの遺跡である。今回の調査地点は、高岡市街地の南西部にある上北島地内に存在し、JR北陸本線の高岡～西高岡間の東端部、庄川扇状地扇端部の微高地上に立地する。西方には、祖父川・小矢部川が北流する。この小矢部川は県内でも有数の暴れ川であり、長年に渡って流路を変えて流れている。付近の地名に手洗野・川合など河川に関連したと考えられるものが見られるのも、そのことに関連すると考えられる。しかし明治43年の地形図や戦後間もない頃の航空写真などを観察すると、近年においては、過度な流路の変化は見られず、現在に至っているようである。小矢部川が長年に渡って形成した小矢部川低地が、石塚江之戸遺跡付近まで接近する。

本遺跡の標高は、約9 m～11mである。層序は、後世の圃場整備により、石塚江之戸遺跡が属したであろう時期の生活面まで削平を受けていたため、旧地形は明らかではないが、遺構が確認できた層位からは、祖父川側、いわゆる小矢部川低地へむかって緩やかに傾斜していく様子が観察できた。



第1図 遺跡調査区位置図 (1:2500)

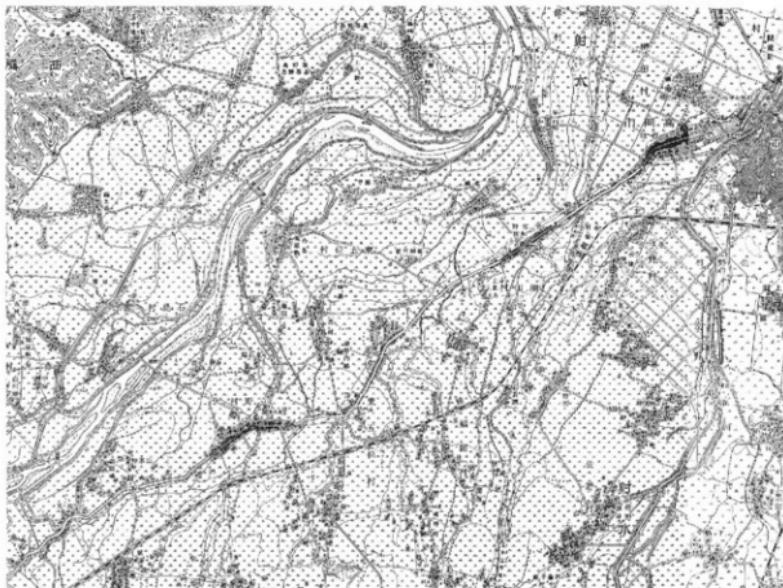
2. 周辺遺跡の分布

石塚江之戸遺跡周辺の遺跡の分布は、本遺跡付近を北流する小矢部川が形成した低地帯を避け、庄川扇状地扇端部、扇尖部にその多くが立地している。高岡市遺跡地図によると、祖父川をはさんで南側に遺跡の分布が見られ、北側には遺跡が発見されていない。このことから、低地と扇状地の境界部分がその付近に来ていることが考えられる。

付近の遺跡には、縄文時代晩期を中心と考えられている高田新芽道遺跡、立野地頭田遺跡、富山県下でも有数の弥生時代中期の遺物が出土し、初期農耕の存在が指摘されている石塚遺跡、弥生時代後期の下佐野遺跡などが分布し、さらに石塚遺跡と関係が指摘されている、弥生時代後期～終末期の玉作りを行っていた短期存続形集落である下老子笠川遺跡が立地する。歴史時代の遺跡としては、船着き場と思われる遺構や、幾内系の暗文土器など、特異な遺物を出土した奈良・平安時代の中保B遺跡、大型掘立柱建物が検出された東木津遺跡などがある。

さらに今回調査した石塚江之戸遺跡は、中近世を中心とした遺跡であったが、付近でその時代の遺跡として挙げられるものには、石塚遺跡・近世北陸道遺跡・手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡・間尽遺跡などがある。しかし、その多くが複合遺跡であり、本遺跡もまた、中世以前の時代を含んでいた事が考えられる。

これらの遺跡は、縄文時代晩期の遺跡が小矢部川低地と扇端部の境界付近に多く分布し、やや扇端部から扇尖部に入った所に平安時代の遺跡が分布する特徴が見られる。



第2図 明治43年石塚江之戸遺跡周辺地図 (1:40000)



第3図 1943年米軍空中写真（約1/40000）



第4図 石塚江之戸遺跡周辺遺跡地図

高岡1/40,000地形図

- | | | |
|-----------------|-----------------|---------------------|
| 1 石塚江之戸遺跡 | 2 石塚遺跡（弥生～中近世） | 3 近世北陸道遺跡（近世） |
| 4 高田新字道遺跡（縄文晚期） | 5 立野地頭田遺跡（縄文晚期） | 6 下老子苞川遺跡（縄文晚期～中近世） |
| 7 中保B遺跡（奈良・平安） | 8 東木津道跡（奈良・平安） | 9 下佐野遺跡（弥生～中近世） |
| 10 手洗野赤浦遺跡（中世） | 11 岩坪岡田島遺跡（中世） | 12 間尽遺跡（古墳） |

3. 調査に至る経緯

当調査区は、平成11年度に、店舗建設に伴い試掘調査を実施し、珠洲などの中世遺物及び遺構が確認されている（リーフィ地区）。その後、出店計画が変更全面的に保存された状況になった。そして、平成13年にはいり、（株）都市造景研究所及び光陽興産（株）を通じて、ときめきウェディング（株）による、総合ブライダルハウス建設計画が、提示された。その後、調査体制は、数度の協議を経て、調査費用のご負担をご快諾いただき、あわせて開発スケジュールに迅速に対応するため、民間調査機関である、（株）中部日本歴業研究所が調査を実施することで調整した。その後、平成13年2月23日付、「埋蔵文化財調査に関する協定書」により、3者間で協定を締結し、現地調査を開始した。

4. 調査経過

現場調査は平成13年3月16日～平成13年4月16日まで実施し、高岡市教育委員会の完工検査を経て、整理作業を平成13年6月29日まで行った。調査面積は1039m²である。

表土の除去はバックホーで、約10日間稼働した。残土は調査区域外に仮置きした。その後、国土座標に合わせたグリッド杭を（株）中部日本歴業研究所地盤工事部によって10m間隔で設定し、その後、遺構確認作業を行った。

遺構確認作業は2日ほどかかり、その結果、調査区北東側に中世の遺物を包含する遺構などが集中して存在する事が判明した。遺構は、溝6条・土坑15基・穴29基・溝状の不明遺構が8条であり、総遺構数は58を数える。遺構確認作業後は、統いて人力による遺構掘削作業を行った。

遺構掘削は、調査区内を東西に走る数条の溝から開始し、遺構が集中する付近から多くの遺物が出土した。遺構掘削は約10日間かかり、それと平行して半板測量による遺構概略図・断面図を作成した。その後、遺構の完掘写真撮影を行った。

航空測量は㈱エイ・テックが実施し、ラジオコントロール、ヘリコプターにより1日で終了した。遺構全体写真等を撮影し、現地調査は終了した。

検出遺構は、土坑・溝・穴・不明遺構など59基を検出した。遺物は中世、近世を中心にコンテナ1箱分が出土した。

平成13年4月20日、高岡市教育委員会による現地調査の完工検査が実施され、4月26日から報告書作成作業へと移行した。報告書作成作業は、写真台帳などの台帳作成、出土遺物の注記、実測図作成を行い、実施した空測で作成した遺構平面図を校正を経て、㈱エイ・テックが納品された段階で、第二原図作成を行った。

その後、図版のトレース等を行い、平成13年6月11日に原稿・図版等の入稿を行い、校正作業に入った。
平成13年6月29日に報告書刊行した。

5. 基本層序

基本層序は、概ね 5 層を確認した。

第Ⅰ層は、調査地が現在まで稲作・畑作を行っていた事もあり、非常に縮まりの弱い表土が20cmほど堆積していた。

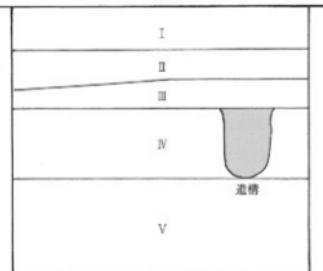
第Ⅱ層は、稲作・畑作時に使われていた耕作土である。

土質はやや縮まりがある。調査区では中央から南側で確認し、北側では、殆ど確認することが出来なかった。堆積は14cmほどで推移する。

第Ⅲ層は、稲作時の床上と考えられる。調査区全体としては堆積が不規則で、全面を均一に堆積しているものではなかった。特に調査区北側では殆ど見られなかった。

第Ⅳ層は、遺構確認面である。調査区全体に、堆積が確認ができた。土質はシルト質である。

第Ⅴ層は、IV層よりさらに砂質の強いシルト質の水成堆積上である。基本層序作成のため、調査区にトレンチを設定し、約150cmほど掘り下げても、確認できた。



I 10YR 3/1 黒褐色（表土）

II 10YR 4/1 褐灰色（耕作土）

III 10YR 7/6 明黄褐色（客土）粘土質

IV 7.5YR 6/1 褐灰色（遺構確認面）シルト

V 7.5YR 7/1 明褐色 シルト

第5図 基本土層

6. 遺構検出

土坑・溝・穴・不明遺構など58基を検出した。土坑15基、溝6条、穴29基、不明遺構 8 条である。

調査区全体が圃場整備時の削平を受けていたため、包含層などは無く、遺構もその影響を受けているようで、深さは概ね浅いもののが多かった。また、遺構に伴う遺物は少なく、時期が特定出来る遺構も少ない。表土から遺物を採取出来たことから、圃場整備以前には、多くの遺構が存在していた事がうかがえる。

7. 出土遺物

出土遺物には、須恵器・土師器・珠洲・瀬戸・唐津などがある。

しかし、その多くは、遺構からの出土ではなく、グリッドや表面採取の遺物であり、破片が多い。今回、遺物に関しては出来る限り図化したが、図化出来ない遺物もあり、それらに関しては、遺物観察表にまとめるにとどめた。

8. グリッド設定

調査区のグリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36°，東経137° 10'）に合わせることとし、一辺10m四方を一区画とするメッシュ状杭を設定した。

東西をX軸、南北をY軸とし、グリッドの南西隅の数値がグリッドを表したものとした。杭名は北—南方に向へアラビア数字を配し、東—西方向にアルファベットを付けグリッド番号とした。

調査区の国土座標値は、北緯36° 43' 57" 東経136° 59' 02" である。

II 遺構

1. 調査区の概要

調査区は、南北35m、東西43m、面積1039m²の十字型にかたどられた部分である。

調査結果は、圓場整備時の削平が広範囲に認められた。圓場整備前から、当地では遺物が採取出来たことなどから、遺構の多くは、圓場整備後に消滅した事がうかがえる。また検出した遺構も深度が浅い事や、遺物の包含が認められないなど、その影響が出ているようである。

最終的には、検出遺構は、溝・土坑を中心に、58遺構が確認された。

調査区内では、東西方向に走る溝状の掘り込みが8条検出された（S X01・03・05・06・53・54・55・56）しかしこれらは覆土中に非常に新しい遺物を含んでいたため、擾乱に近いものと判断し、不明遺構と分類した。よって本報告上では割愛し、溝状の掘り込みの性格や時期などの判断は、周辺での今後の調査結果に、委ねたいと考える。

遺構分布の傾向は、調査区に接している北側の都市計画道の方に、中世の遺物を包含する遺構などが比較的集中して確認された。今回検出した遺構の多くは、この地点で確認されたものであり、破片ではあるが珠洲などの中世に由来する遺物が多く出土している。

調査区中央部には、遺構数は少なく穴を中心で検出した。なかでもS P28から31の4基は横列のように列をなして検出している。しかし付近にそれに関係する建物などの痕跡がない事や、横列としての遺構の連続性があまり見られないことから、横列ではなくむしろ別な性格のものを考えたい。

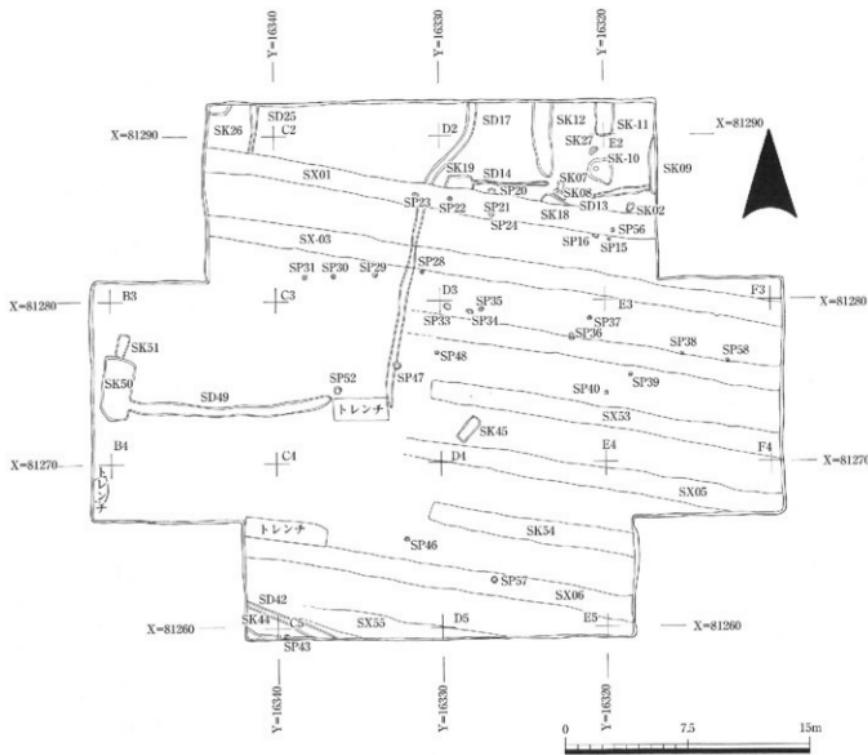
調査区南側では、遺構は少ないものの、調査区隅の狭い範囲で溝S D42・土坑S K44を確認した。この場所からも、珠洲の擂鉢など中世の遺物を確認している。

調査区全体の様相は、S D17とS D25が調査区北側で、区画溝のように平行して、東西にやや傾きながら南北方向に走る。これらの溝の時期は、出土遺物が無いことから不明であるが、規模等に類似点が多いことから、比較的近い時期のものである可能性を含む。さらにこれらの溝と、S D49とは、やや軸方位を異にするものの、同様な可能性が考えられる。

S D17の東側には、土坑などの遺構が集中する。土坑の配置は、規則性を認めず、遺物もS K2・7・8・12において珠洲の破片や須恵器片が出土したほかは、特に出土しなかった。

遺構の平面形は、方形に近いものが多く、覆土も似た土質であった。

今回の遺構の検出状況は、遺跡の中心が、遺跡の東方に広がり、石塚遺跡にかけて存在することを示唆した。



第6図 石塚江之戸追跡造橋全体図 (1:300)



調査区全景（北西）



調査区全景（南東）

2. 土坑

土坑は15基確認された。その多くは調査区北西隅で検出した。時期の解る遺構はほとんど無く、土坑が集中して検出された場所の確認面直上で確認された遺物から、概して中世のものであると想定できる。

土坑SK2（出土遺物図版11・12）

調査区北西隅で検出した土坑である。平面形はほぼ橢円形を呈し、規模は長軸0.53m・短軸0.39mを測る。遺物は覆土上面に珠洲の破片が1点出土したにとどまり、積極的な時期特定は難しい。中世に留めたい。

土坑SK7・8（出土遺物図版11・13）

SK2のすぐ東側に位置し、SK7がSK8を切る形で検出された土坑である。SK7・8の平面形は橢円形を呈し、SK7の規模は長軸1.17m・短軸0.54mを測る。SK8の規模は長軸0.95m・短軸0.45mであり、この2基の土坑からは、珠洲の破片1点が出土した。時期はSK2と同様に、中世に留めたい。

土坑SK9

調査区北側隅の調査区域端に存在し、SD13に切られる形で検出された土坑である。平面形はやや隅丸方形で、規模は長軸3.79m、短軸は検出できた部分だけで0.50mを測る。遺物の出土は無かった。

土坑SK10

調査区北側で検出した土坑である。平面形は橢円形を呈し、規模は長軸1.50m・短軸1.41mを測る。遺物の出土はなかった。

土坑SK11

調査区北側で検出した土坑である。平面形は方形を呈す。遺構の一部が調査区外に伸びているものの、規模は長軸2.14m・短軸1.17mであった。遺物の出土はなかった。

土坑SK12

SK11の東隣に位置する上坑で、平面形は方形で、SK11に類似する点が多い。規模は長軸4.65m・短軸1.15mを測る。出土遺物は、須恵器片や唐津碗の破片などが見られたが、混入遺物と考えられる。

土坑SK18

SX1に切られる形で検出された土坑である。平面形は方形を呈し、規模は長軸1.72m・短軸0.54mを測る。

土坑SK19

SX18同様にSX1に切られる上坑である。平面形は方形を呈し、規模は長軸1.69m・短軸0.79mを測る。遺物の出土はなかった。

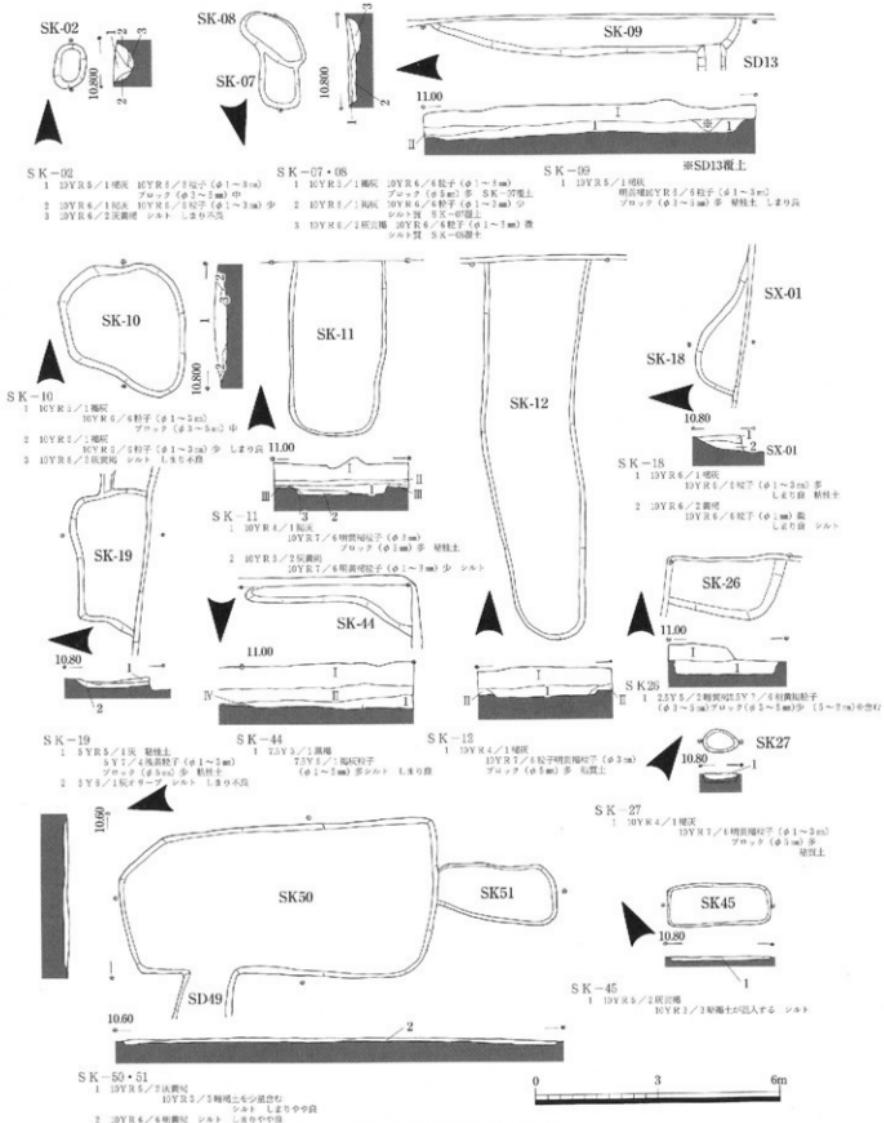
土坑SK26

調査区東隅で検出した土坑である。平面形は方形を呈し、規模は長軸1.32m・短軸0.71mを測る。遺物の出土はなかった。

土坑SK27

調査区北側で検出した土坑である。平面形は橢円形を呈し、規模は長軸0.48・短軸0.43を測る。遺物の出土は見られなかった。

土坑SK44（出土遺物図版11・20）



第7図 土坑、遺構平面図・断面図（1:60）

調査区南側隅で検出した土坑である。平面形は不整形を呈し、規模は長軸5.73m・短軸0.57mを測る。遺物は珠洲の擂鉢が出土している。

土坑SK45

調査区ほぼ中央で確認された土坑である。平面形は方形で、規模は長軸1.70m・短軸0.70mを測る。

土坑SK50・51

調査区西側で検出した土坑である。切り合いで認められ、SK50がSK51を切る形で検出した。規模はSK50が長軸3.85m・短軸1.58m、SK51が長軸1.46m・短軸0.69mを測る。平面形は双方ともに方形であり、遺物の出土は無かった。

3. 溝

溝は6条確認されている。それぞれの溝からは遺物の出土は見られず、時期の特定は難しいものの、他の遺構との関係から、中世であろうと考えられる。

溝SD13

調査区東側で検出された溝である。東西方向に走り、土坑SK9を切る形で検出された。規模は全長3.71m・幅0.44m・深さ約0.20mを測る。遺物の出土はなかった。

溝SD14

調査区北側で検出された溝である。SD13と同様に、東西方向に走り、土坑SK19に切られる形で検出されている。規模は全長4.57m・幅0.21m・深さ約0.10mを測る。遺物の出土はなかった。

溝SD17

調査区北側から、やや東・西に傾きながら、南北方向に向かって走る溝である。やや湾曲する箇所はあるものの、全体的に南北方向に向かって直線的にのびる。規模は全長18.44m・幅0.45m・深さ約0.35mを測る。断面形は、遺構が深い場所ではU字形を呈する。遺物の出土はなかった。

溝SD25

SD17と同様に、東・西に傾きながら、南北方向に向かって走る溝である。規模は全長3m・幅0.43m・深さ約0.20mである。断面形はU字形を呈し、遺物の出土はなかった。

SD17とはほぼ同一方向に走り、規模も類似する点が多いことから、同時期のものである可能性がある。

溝SD42

調査区南側隅で検出された溝である。東西方向に、軸をやや北・南方向に傾きながら走る。規模は全長5.73m・幅0.57m・深さ約0.2mを測る。遺構からの遺物の出土はなかった。

溝SD49

調査区西側で検出された溝である。東西方向に向かって走り、SK50と切り合いで見られるものの、遺構の深さがほとんどなく、遺物の出土もなかったため前後関係は不明であった。規模は全長12.42m・幅0.71m・深さ約0.10mを測る。

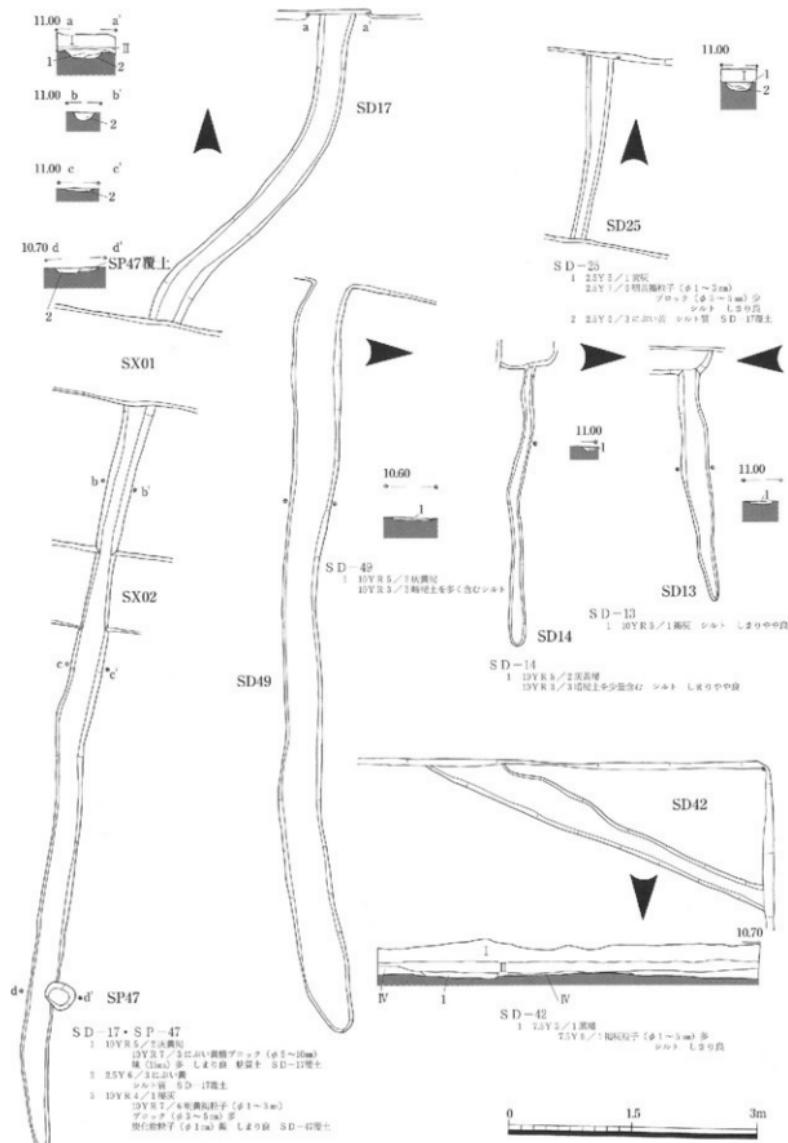


図8 図 溝、道橋平面図・断面図 (1:60)

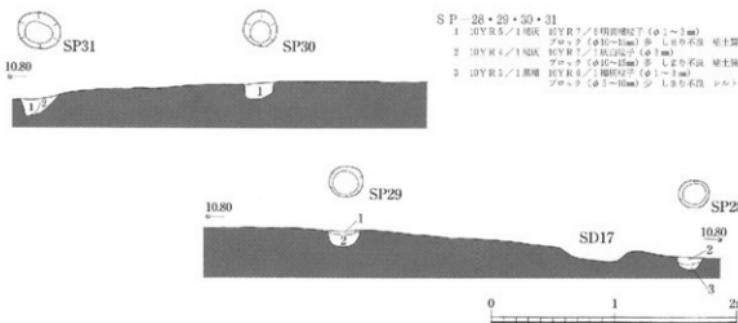
4. 穴

穴の検出は総数29基を数える。うちSP28からSP31までのピット列を1条確認した。ピット列の穴を含めて柱痕は確認できず、やや配列に規則性が存在しそうではあるが、明確なものは確認出来なかった。

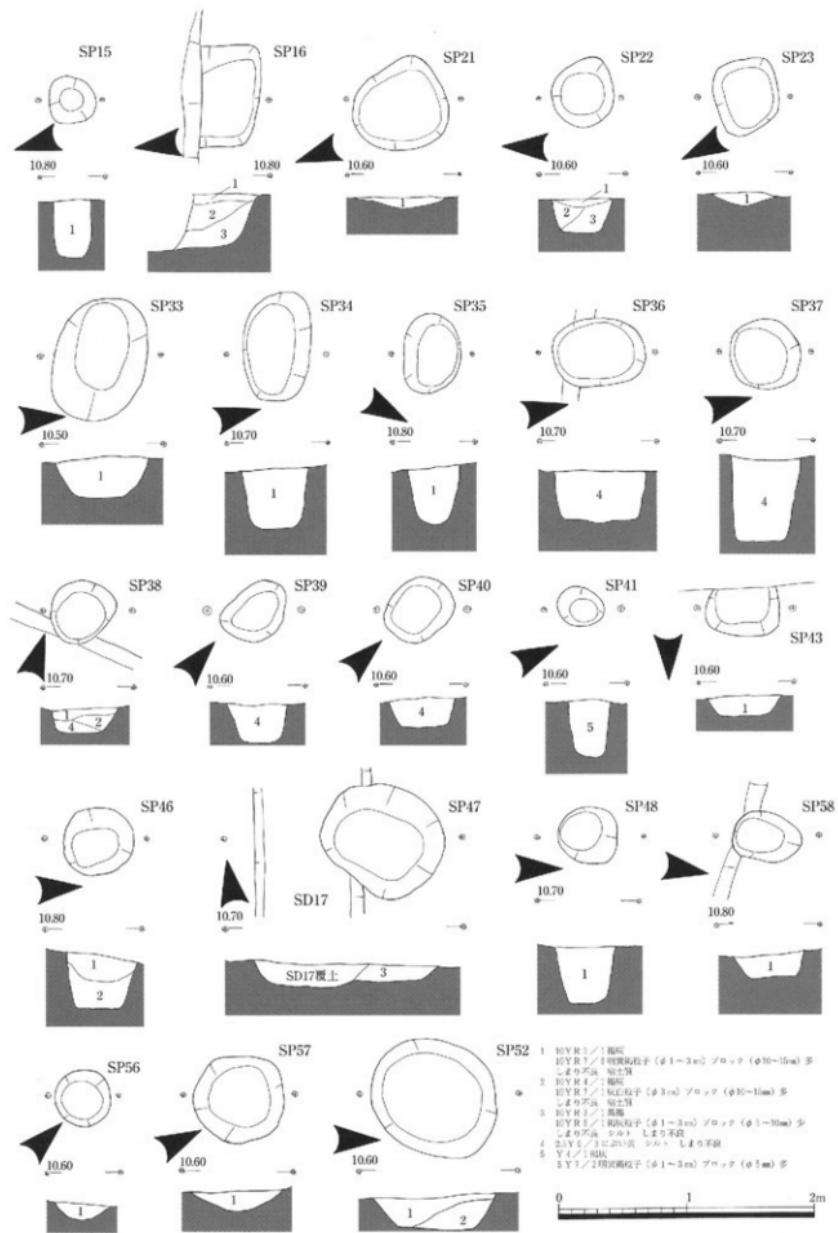
各穴の平面形・規模は以下の通りである。

SP 15平面形 方形 長軸0.18m 短軸0.18m	SP 36平面形 方形 長軸0.36m 短軸0.27m
SP 16平面形 方形 長軸0.40m 短軸0.23m	SP 37平面形 楕円形 長軸0.28m 短軸0.26m
SP 20平面形 方形 長軸0.45m 短軸0.40m	SP 38平面形 楕円形 長軸0.25m 短軸0.23m
SP 2平面形 楕円形 長軸0.36m 短軸0.36m	SP 39平面形 方形 長軸0.26m 短軸0.21m
SP 22平面形 楕円形 長軸0.26m 短軸0.24m	SP 40平面形 方形 長軸0.26m 短軸0.22m
SP 23平面形 楕円形 長軸0.29m 短軸0.25m	SP 41平面形 楕円形 長軸0.17m 短軸0.16m
SP 24平面形 楕円形 長軸0.38m 短軸0.19m	SP 43平面形 方形 長軸0.30m 短軸0.29m
SP 28平面形 楕円形 長軸0.25m 短軸0.23m	SP 46平面形 方形 長軸0.27m 短軸0.26m
SP 29平面形 楕円形 長軸0.27m 短軸0.25m	SP 47平面形 方形 長軸0.47m 短軸0.45m
SP 30平面形 楕円形 長軸0.28m 短軸0.27m	SP 48平面形 方形 長軸0.23m 短軸0.22m
SP 31平面形 楕円形 長軸0.34m 短軸0.29m	SP 52平面形 楕円形 長軸0.49m 短軸0.46m
SP 32平面形 楕円形 長軸0.21m 短軸0.19m	SP 56平面形 方形 長軸0.22m 短軸0.21m
SP 33平面形 方形 長軸0.50m 短軸0.36m	SP 57平面形 方形 長軸0.35m 短軸0.34m
SP 34平面形 方形 長軸0.41m 短軸0.26m	SP 58平面形 楕円形 長軸0.26m 短軸0.20m
SP 35平面形 方形 長軸0.31m 短軸0.22m	

穴の平面形や規模は、若干の大小はあるにせよ、比較的まとまりが見られる。しかし、遺物の出土はなく、時期を決定する上で重要な要因を欠いているため、同一時期のものかどうかという点においては明確な根拠が無く、不明といわざるをえない。



第9図 SP28～SP31 Pit列造構図 (1:40)



第10図 ピット平面図・断面図 (1:40)

III 遺 物

出土遺物は、数点の須恵器片、中近世の遺物を中心として、コンテナ1箱分であった。

奈良・平安 須恵器 (第11図・1・2・15・17)

1・2は壺か甕の破片である。表面には縫合痕があり、内面には同心円状の当て具痕が残る。15は器種不明であるが、口縁部から底部に向かいナデ調整が施されていた。17は壺の口縁部で、全体的にナデ調整とロクロナデ調整が施されていた。

中世 珠洲 (第11図・4~14・16・18・19)

4は甕の破片である。外面に珠洲特有の叫き文を配し、内面は当て具痕が残る。5・6・9・10・11・12・13・14も同様であり、6・9は外面に綾杉文を配している。7・8・18・16・19は擂鉢である。内面に櫛歯ができ、外面はナデ調整を施す。16は口縁部である。

近世 唐津 (第11図・20・21)

20は皿である。底部から口縁部へ向かって緩やかに外反し、口縁中位ほど角度を変え、内湾して口端部へ向かう。高台部は削り出し高台である。外面はロクロナデ調整が施される。底部付近に釉薬のかからない部分があり、また指頭痕が確認出来ることから、釉薬をどぶ漬けにより施釉した事がうかがえる。

21は、通称内野山と呼ばれている皿である。底部から口縁に向かって浅く外反し、外面は底部付近まで透明釉がかかり、内面は蛇の目釉ハギで銅緑釉がかかる。高台は削りだし高台である。

近世 肥前 (第11図・23・24)

23は皿である。底部から口縁部にかけて浅く外反する。外面には呉須で一条の線と文様の一部が入る。

24は皿である。23と同様に外面は一条の線を描く。内面は二条の線に九曜風な文様を表現している。

近世 美濃・瀬戸 (第11図・22)

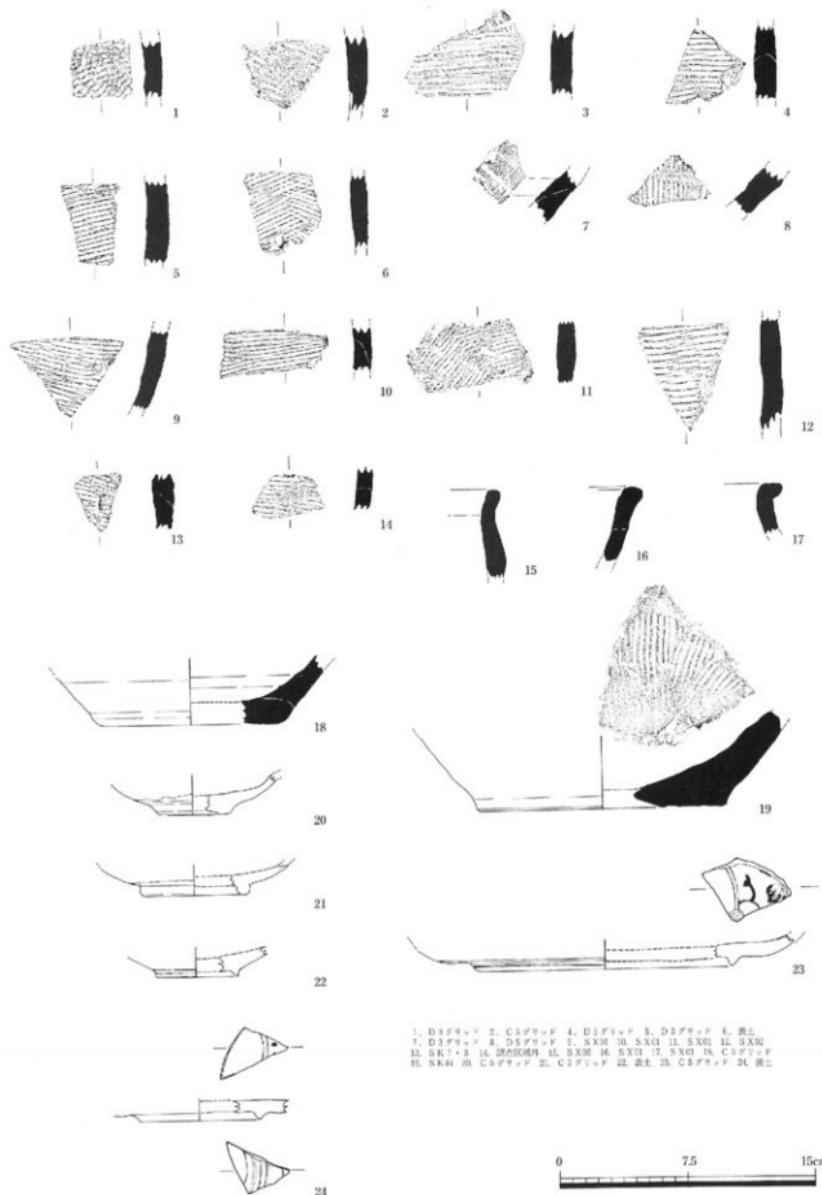
22は皿である。口縁部へ緩やかに外反し、内外面に透明釉がかかる。呉須で底部外面に2条の線が入る。

番号	器種	種別	出土位置	残存長	器厚	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甕・壺	須恵器	D3グリッド	3.2	1	緻密	良	青灰色	5%	
2	甕	須恵器	C3グリッド	4.4	1.1	緻密	良	青灰色	5%	表面摩耗
3	不明	珠洲	C5グリッド	3.4	1.2	粗雑	やや良	青灰色	5%	海面骨針含む
4	甕	珠洲	D5グリッド	4.2	1.2	粗雑	良	青灰色	5%	白色小穀含む
5	甕・壺	珠洲	D3グリッド	4.8	1.3	やや密	良	青灰色	5%	
6	甕・壺	珠洲	表土	4.3	0.9	粗雑	良	青灰色	5%	白色小穀含む
7	壺	珠洲	D3グリッド	2.5	1.2	粗雑	良	青灰色	5%	白色小穀含む
8	壺	珠洲	D5グリッド	3.1	1.2	粗雑	良	青灰色	3%	
9	甕	珠洲	SX01	4.5	1	粗雑	良	青灰色	5%	白色小穀含む
10	甕	珠洲	SX01	2.6	1	粗雑	良	青灰色	3%	白色小穀含む
11	甕	珠洲	SX01	3.4	1.1	粗雑	良	青灰色	5%	
12	甕	珠洲	SX02	6.5	1.1	粗雑	良	青灰色	5%	
13	甕・壺	珠洲	SK7-8	2.9	1	粗雑	良	青灰色	5%	白色小穀含む
14	甕	珠洲	調査区域外	2.4	0.9	粗雑	良	青灰色	5%	白色小穀含む
15	不明	須恵器	SX05	5	9	緻密	良	青灰色	10%	
16	壺	珠洲	SX01	4.3	1	やや粗雑	良	青灰色	10%	
17	甕	須恵器	SX01	3	1	やや粗雑	良	青灰色	10%	
18	壺	珠洲	C3グリッド	4	1.3	やや粗雑	良	青灰色	40%	白色小穀含む
19	壺	珠洲	SK44	5.5	2.2	やや粗雑	やや良	青灰色	45%	白色小穀含む
20	皿	唐津	C5グリッド	2.2	0.6	緻密	良	灰褐色	45%	
21	皿	唐津(内野山)	C3グリッド	1.8	0.6	緻密	良	乳白褐色	5%	
22	皿	美濃・瀬戸	表土	1.7	4.8	緻密	良	乳白色	10%	
23	皿	肥前	C5グリッド	1.4	0.9	緻密	良	乳白色	5%	
24	皿	肥前	表土	1.2	0.6	緻密	良	乳白色	10%	

表1 実測遺物観察表

番号	器種	種別	出土位置	残存長	器厚	胎土	焼成	色調	残存率	備考
25	拂り鉢	珠洲	調査区域外	4.1	1.1	粗雑	不良	乳白色	3%	極目やや残る
26	盃	須恵器	D5グリッド	3.6	0.9	粗雑	良	青灰色	3%	
27	不明	珠洲	B5グリッド	3.6	1.2	粗雑	良	青灰色	3%	
28	不明	須恵器	SK12	3.3	0.6	粗雑	良	青灰色	5%	
29	壺・壺	珠洲	調査区一括	2.4	1.1	粗雑	良	青灰色	3%	白色小縫含む
30	不明	不明	SX01	2.2	0.8	粗雑	良	白褐色	3%	
31	不明	青磁	E4グリッド	2.4	0.5	粗雑	良	白褐色	3%	
32	不明	土師器	SX05	0.8	0.3	粗雑	良	茶褐色	1%	
33	不明	不明	SX01	2.1	0.8	粗雑	良	白褐色	3%	
34	不明	D2グリッド	1.8	0.3	粗雑	良	茶褐色	1%		
35	不明	唐津	D3グリッド	1	0.4	粗雑	良	灰褐色	1%	
36	碗	肥前	表土	1.9	0.3	粗雑	良	乳白色	1%	
37	碗	不明	確認面直上	2.3	0.3	緻密	良	白色	2%	近代
38	皿	唐津(内野山)	D5グリッド	1.9	0.3	緻密	良	乳白褐色	3%	口縁部
39	不明	唐津(内野山)	表土	1.9	0.3	緻密	良	乳白褐色	3%	
40	皿	調査	調査区域外	2.1	0.7	粗雑	良	白色	3%	
41	不明	不明	C5グリッド	2	0.6	粗雑	良	灰褐色	1%	
42	不明	土師器	SX01	2.9	0.6	粗雑	良	茶褐色	1%	
43	不明	不明	SX01	2.1	0.6	粗雑	良	茶褐色	1%	
44	碗	唐津	調査区域外	2.1	0.5	緻密	良	灰褐色	3%	鉄輪有り
45	不明	不明	D5グリッド	1.3	0.2	粗雑	良	白色	1%	近代?
46	不明	土師器	C5グリッド	1.1	0.2	粗雑	良	茶褐色	1%	口縁部
47	不明	青磁	確認面直上	1.8	0.3	粗雑	良	乳白色	2%	近代
48	不明	不明	C5グリッド	1.4	0.9	粗雑	良	赤褐色	1%	
49	不明	土師器	調査区一括	2.4	0.8	粗雑	良	黒褐色	1%	
50	皿	不明	D5グリッド	1.1	0.4	粗雑	良	乳白色	1%	
51	皿	窓戸	確認面直上	2.2	0.6	緻密	良	白色	1%	
52	不明	不明	SX01	1.9	0.5	粗雑	良	赤褐色	1%	鉄輪有り
53	不明	土師器	SX01	1.4	0.5	粗雑	良	茶褐色	1%	
54	不明	土師器	SX01	1.8	0.6	粗雑	良	茶褐色	1%	
55	碗	肥前	D5グリッド	1.5	0.3	緻密	良	乳白色	1%	コンニヤ印版?
56	不明	不明	D5グリッド	1.4	0.3	緻密	良	乳白色	1%	磁器
57	不明	不明	D5グリッド	1.4	0.3	緻密	良	白色	1%	磁器
58	不明	土師器	SX01	1	0.4	粗雑	良	茶褐色	1%	
59	彌利	磁器	D2グリッド	1.5	0.2	緻密	良	白色	2%	近代?
60	不明	土師器	SX01	1.6	0.4	粗雑	不良	乳白色	1%	底部?
61	不明	土師器	SX01	2.1	0.3	粗雑	不良	乳白色	1%	
62	不明	土師器	SK10	1.9	0.6	粗雑	良	茶褐色	2%	
63	不明	土師器	SX03	0.7	0.2	粗雑	不良	茶褐色	1%	
64	急須	磁器	SX01	2.8	0.3	緻密	良	白色	1%	鉄輪有り 近代?
65	碗	唐津	C5グリッド	1.5	0.4	緻密	良	赤褐色	1%	鉄輪有り 近代?
66	不明	土師器	調査区域外	1.3	0.4	粗雑	不良	乳白色	1%	
67	不明	不明	SX05	1.3	0.2	粗雑	不良	赤褐色	1%	
68	不明	不明	SX01	0.9	0.4	粗雑	不良	赤褐色	1%	
69	碗	唐津	調査区域外	1.3	1	緻密	良	灰褐色	2%	鉄輪有り
70	碗	唐津	調査区域外	1.8	0.4	緻密	良	灰褐色	2%	鉄輪有り
71	不明	珠洲	表土	1.6	0.6	粗雑	良	暗灰色	1%	叫き目有り
72	不明	陶器	SK12	2.3	0.8	緻密	良	乳白色	2%	鉄輪有り
73	不明	土師器	SX03	1.5	0.5	粗雑	不良	茶褐色	1%	口縁部
74	不明	土師器	SX03	1.6	0.6	粗雑	不良	茶褐色	1%	鉄輪有り
75	不明	陶器	確認面直上	2.3	0.6	粗雑	良	褐色	2%	口縁部
76	皿	唐津(内野山)	D2グリッド	1.1	0.3	緻密	良	乳白色	1%	
77	不明	土師器	F4グリッド	2.6	1.5	粗雑	やや良	赤褐色	2%	
78	不明	土師器	SX03	1.5	0.9	粗雑	良	茶褐色	2%	
79	不明	磁器	SX01	1.4	0.3	緻密	良	乳白色	1%	口縁部
80	不明	土師器	調査区域外	1.3	0.4	粗雑	良	茶褐色	1%	口縁部
81	不明	土師器	SX01	0.9	0.4	粗雑	良	茶褐色	1%	
82	不明	土師器	SX01	1.3	0.5	粗雑	良	茶褐色	1%	口縁部
83	不明	土師器	SX03	1	0.6	粗雑	良	茶褐色	1%	
84	不明	磁器	SX01	1.8	0.4	緻密	良	乳白色	1%	

表2 実測外遺物観察表



第11図 出土遺物実測図 (1:3)

1. D1グリッド 2. C3グリッド 4. D1グリッド 5. D3グリッド 6. 土
 7. D3グリッド 8. D5グリッド 9. SXM 10. SXO 11. SXO 12. SXO
 13. SK+8 14. 鉛鉢鉢身 15. SXM 16. SXO 17. SXO 18. C3グリッド
 19. SK+8 20. C3グリッド 21. C3グリッド 22. SXO 23. C3グリッド 24. 土

IV 結語

今回の地点では、土坑・溝・穴などが確認され出土遺物などから中近世の遺構を中心として構成されることが判明した。

調査区は、開場整備によって広範囲に削平を受けており、包含層は既に無く、遺構確認面が表土直下に存在した。その結果、遺構の多くが消滅している可能性は高い。さらに検出された遺構も浅く、削平の影響を受けている。遺跡の性格は検出された遺構・遺物も少ないため、積極的に判断する事はひかえ、専実記載の総括を行いたいと思う。

先にも述べた通り、遺構は土坑、溝、穴を中心に検出した。それらの遺構のうち、遺物を包含するものはSK02・07・08・12・44であり、中世の珠洲など、破片が多く出土している。須恵器の破片は、数点SK12から出土しているが、出土状況や、その遺構復元の堆積環境から、後世における混入と考えられる。

遺物の時期に関しては、珠洲標鉢の歯齒が中古の原体で幅広く、吉岡編年IV・V期頃と考えられるもの(第11図・20)がSK44から出土した他、グリッドで確認したものに関しても、ほぼ同時期と考えられるもの(第11図・8)が出土している。しかしグリッド採取遺物ではあるが、これよりも時期を遅るものと考えられる椎鉢(第11図・7)もあり、中世においては、複数時期かの存続が考えられる。甕の破片は多く出土しているが、口縁部など時期の特定できる部分が無く、不明である。

また今回は、遺構に伴ってはいないものの、グリッドで確認した遺物で、唐津の内野山(第11図・21)や肥前の磁器片が出土した。内野山は(第11図・21)、その釉薬の色調や器形などから、内野山II期の製品と考えられる。

今回の調査では、遺構・遺物とともに、遺跡の性格や石塚遺跡との関連などを明らかにできるものがなかった。今後の石塚江之戸遺跡の調査に期待したい。

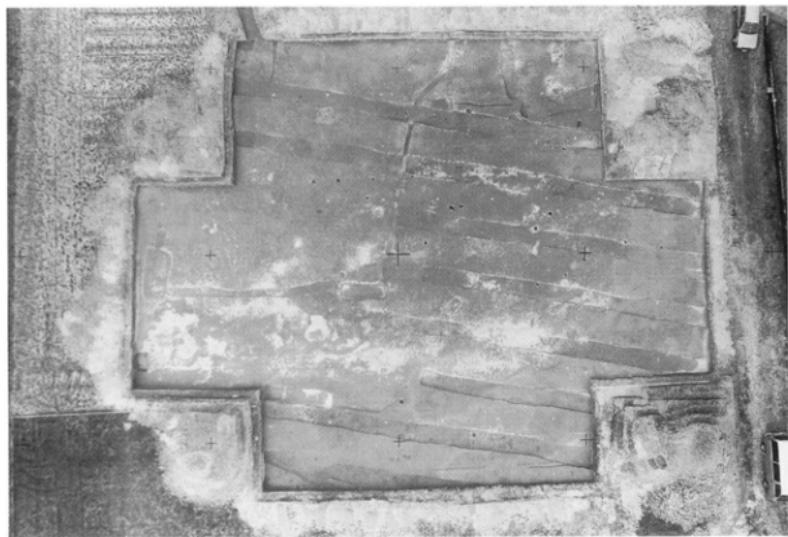
[参考文献]

- 大橋康二 1994 『古伊万里の文様』 理工学社
東中川忠美 1996 『内野山北窯跡』 佐賀県教育委員会
山口辰一他 1999 『石塚遺跡調査概報V』 高岡市教育委員会
古岡康暢 1989 『総論 珠洲古陶』『珠洲の名陶』 珠洲市立珠洲焼資料館
古岡康暢 1994 「第2章 珠洲陶器の編年的研究」「中世須恵器の研究」古川弘文館

写 真 図 版



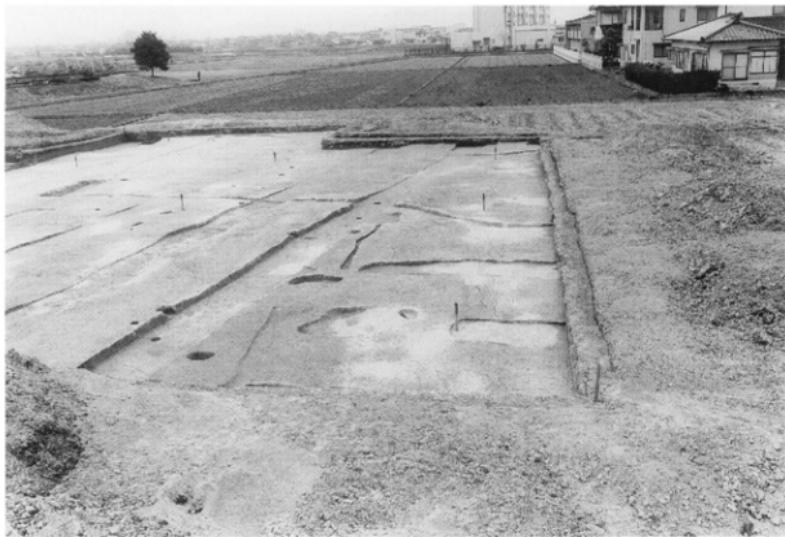
1 調査区遠影（南から）



2 調査区全景



1 調査区全景（北西から）



2 調査区北側全景（東から）



1 SK 02完掘（北から）



2 SK 07・08完掘（北から）



3 SK 09完掘（南から）



4 重機稼動風景（南西から）



1 現調査風景（北から）



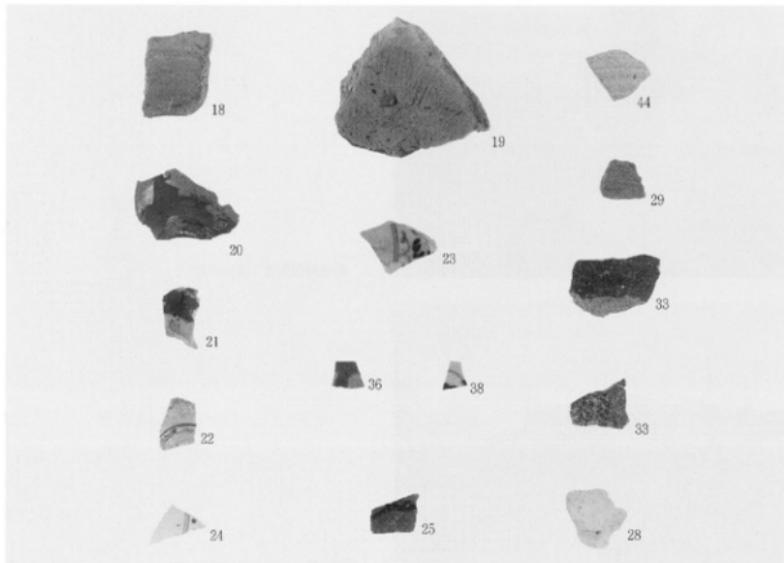
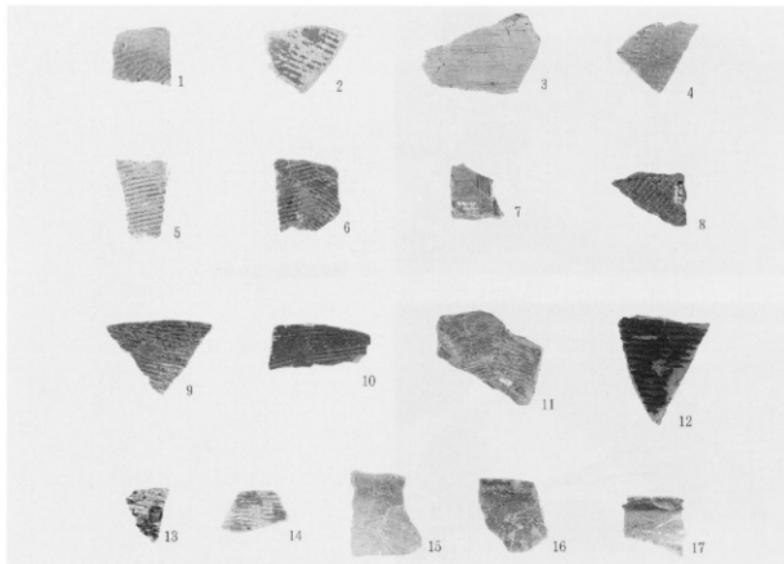
2 土層断面図作成風景（南西から）



3 航空測量風景（東南から）



4 仮設基地設置風景（南から）



報告書抄録

ふりがな	いしづかえのといせきちょうさがいほう							
書名	石塚江之戸遺跡調査概報							
副書名	平成12・13年度 総合ブライダルハウス建設に伴う調査							
巻次								
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報							
シリーズ番号	第48冊							
編著者名	太田浩司・新宅輝久							
編集機関	株式会社 中部日本鉱業研究所 埋蔵文化財調査室							
発行機関	高岡市教育委員会							
所在地	〒933-8601 高岡市広小路7番50号							
発行年月	西暦 2001年6月29日							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしづかえのと 石塚江之戸	富山県高岡市 上北島	016202	202159	36° 43' 57"	136° 59' 02"	20010316 20010629	1039m ²	総合 ブライダル ハウス建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項	
石塚江之戸	集落跡	中世・近世		土坑 溝 ビット	15基 6条 29基	須恵器・七輪器・珠潤 近世陶磁器		

高岡市埋蔵文化財調査概報第48回

石塚江之戸遺跡調査概報

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7番60号

2001年6月29日

印刷所 株式会社富山フォーム印刷

富山県富山市黒崎173番1
